

児童・生徒にデジタルカメラとインターネットを、ノートや鉛筆と

これらの項目を分類すると次のようになろう。

教材文を読んで連想

56 ステップ目のマップ

きる。マップ5であらかじめ作っておいたのは、「トピック「ヒートアイランド」」だけだが、そこから完成までには、フォントの変更などの手懸念どの

ができるということ。つまり「読解能力の開発手段」としての側面である。この二つの側面を読解学習に生かすことで、児童・生徒の読解能力を向上させることができるのである。

2 まとめ

この章で紹介した学習は、コンピュータを学習メディアとして活用するという方法であり、それはコンピュータ上の仮想空間内に学習環境を作るとはあるとも言える。読解や表現などの脳の活動を想像化して学習環境は市立豊田で生徒の思考活動の仮想現実が、実際には見ることのできない世界を表現することができ、これは今のところコンピュータを用いる第一

言恆
豊田生徒

